

Information



Contents

- | | | | |
|----|----------------|----|---------------|
| 71 | 事業セグメントと主要製品 | 77 | SASBスタンダード対照表 |
| 73 | 解説：半導体テスト・システム | 79 | 外部からの評価 |
| 75 | 当社がテストする半導体 | 81 | 会社概要／株式情報 |
| 76 | 11年間の主要財務データ | 82 | グローバル・ネットワーク |

事業セグメントと主要製品

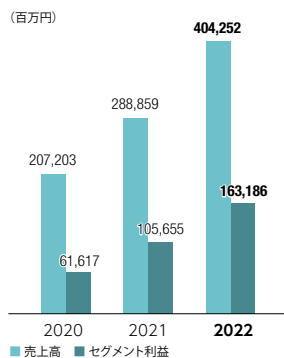
当社の事業セグメントは、売上高の約7割を占める「半導体・部品テストシステム事業」、テスト・システムの周辺機器などからなる「メカトロニクス関連事業」、顧客サポートとシステムレベルテストを主とする「サービス他」の3つで構成されています。これらの製品・ソリューションの組み合わせにより多種多様な半導体、そして幅広い顧客ニーズへの対応を可能にすることが、当社の競争力の源泉となっています。

半導体・部品テストシステム事業部門

当社の主力製品である半導体試験装置は、SoC半導体用のテストとメモリ半導体用のテストの2つに大別されます。

SoC半導体用のテストは、ロジック半導体やアナログ半導体、RFデバイスなど、メモリ半導体以外のほぼすべてのデバイスをテストすることが可能です。SoC半導体用テストの市場規模はメモリ半導体用の3倍以上にのぼり、テストのユーザー数もファブレスやファウンドリー、OSATなど数百家におよびます。この顧客・品種の多さがSoC半導体のテスト市場の特徴で、当社のSoC半導体用のテストは試験範囲・試験能力の拡張性に優れ、低コストのIoTデバイスからハイエンド・デバイスまで、広範囲のデバイスをテストすることができます。

メモリ半導体用のテストにおいては、少品種・大量生産が一般的なDRAMやNANDフラッシュといったメモリ半導体の生産工程に最適化された、一度により多くのデバイスをテストする能力の高いメモリ半導体専用テスト・システムが多く採用されています。



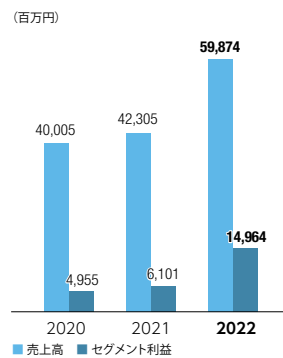
メカトロニクス関連事業部門

メカトロニクス関連事業は、テスト・システムの周辺機器であるデバイス・インタフェースとテスト・ハンドラ、半導体前工程で用いられるナノテクノロジー製品で構成されています。

デバイス・インタフェースは、テスト・システムと電気的に接続する機器の総称で、生産ラインでサイズやピン数が違う多品種のデバイスをテストする時も、短時間でテストデバイス切替を可能にします。

テスト・ハンドラは、半導体後工程において半導体パッケージをテスト・システムに搬送、温度の印加、テスト結果に従って半導体を仕分ける、という3つの役割を一台でこなす装置です。当社のテスト・システムやデバイス・インタフェースと組み合わせることで、高いテスト品質と生産効率を兼ね備えた「テスト・セル」をワンストップで提供します。

ナノテクノロジー製品は、当社の電子ビーム技術を活用した走査型電子顕微鏡です。半導体前工程で、フォトマスクやウェーハに描かれた回路の幅や高さなどを測ることができ、EUVリソグラフィーの普及とともに需要の増加が期待できます。



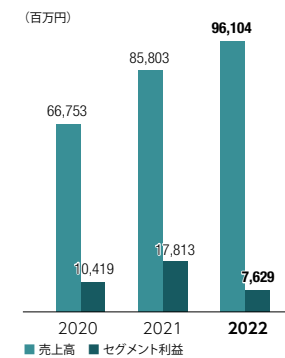
サービス他事業部門

サービス他の売上高は、フィールド・サービス事業とシステムレベルテスト事業の2つが大きな割合を占めています。

フィールド・サービスでは、システムの保守・メンテナンスに加え、稼働率向上や量産立ち上げのコンサルティング、セキュリティを考慮したオンラインサポートなど、高付加価値なサービスの拡大を目指しています。

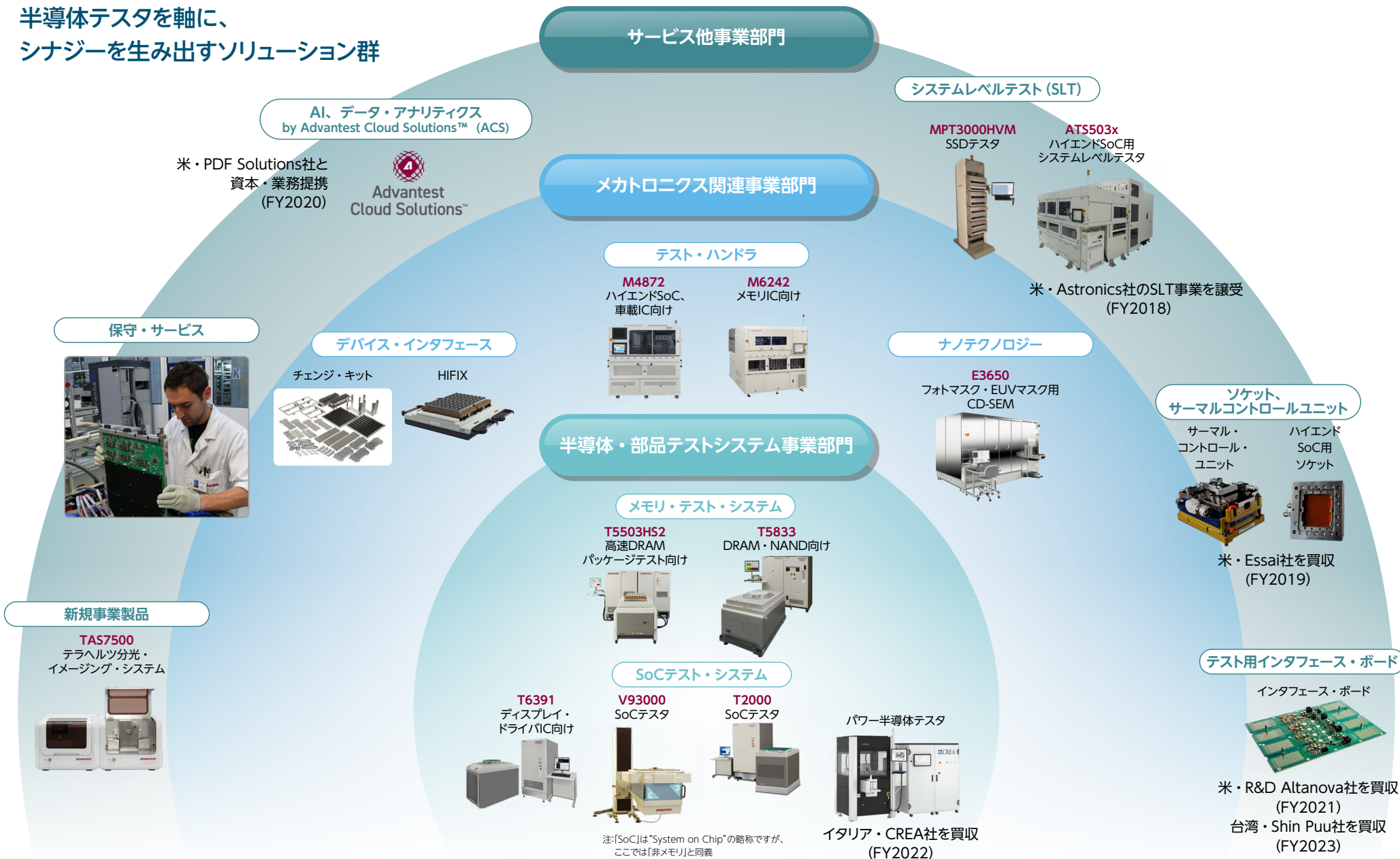
システムレベルテストは、半導体が最終製品に組み込まれた状況と同様の環境下で動作をテストするもので、デバイス単体のテストではチェックしきれない不良をスクリーニングします。当社はM&Aも活用しながらハイエンド・デバイス向けのシステムレベルテスト需要の伸びを捕捉する態勢を早期に築いており、さらにテスト・システムとの相乗効果でビジネスの伸長を図っています。

サービス他のセグメントには上記のほか、半導体製造工程内のデータ活用を可能にするAdvantest Cloud Solutions™ (ACS)、中古品販売、医療分野の理化学機器をはじめとする非半導体分野での計測ソリューションなどの事業が含まれます。



事業セグメントと主要製品

半導体テストを軸に、
シナジーを生み出すソリューション群



注:「SoC」は「System on Chip」の略称ですが、ここでは「非メモリ」と同義

解説：半導体テスト・システム

テスト・システムの価値

半導体はさまざまな機器に搭載され、私たちの生活を支えています。この半導体が正しく動作しなくては、社会は立ち行かなくなってしまう。一方で、ナノメートルという微細な回路で作られ、高速で動作する半導体は、製造工程でのごくわずかな要因で、断線、動作電圧やタイミングのばらつきといった不具合が生じてしまうこともあります。

特に最先端のデバイスを安定的に作ることは技術的に大きなチャレンジとなり、メーカーはデバイスの品質を速やかに向上させるため、設計や量産の早い段階から十分に試験を行うなど努力を重ねています。そこで活躍するのが半導体テスト・システムです。半導体テスト・システムは、半導体がパッケージングされた後、最終的に良品か不良品かを判定する「ファイナル・テスト」だけでなく、前工程の最後にウェーハの状態で行う「ウェーハ・テスト」、さらには設計・評価段階でも使用されます。量産工程のテストであぶり出された不良の原因を解析し、設計段階にフィードバックすることで歩留まりを向上させたり、設計・評価段階のテスト・プログラムやテスト・データを量産工程に活か

したりすることで、工期全体の短縮や量産工程の迅速な立ち上げ、コスト削減など顧客のビジネスの成功に貢献します。

また、テスト・システムの多くはモジュール構造を採用し、ボードやテスト・プログラム、デバイス・インタフェースを入れ替えることで、1台で何種類もの半導体がテスト可能になります。用途に合わせて数多くの品種を展開するSoCビジネスでは、テスト・システムのフレキシビリティが顧客のビジネス成功の大きな支えとなっています。

優れた半導体テスト・システムとは

半導体テスト・システムの差別化ポイントは、計測品質、試験速度、スループット（デバイス1個あたりに要するテスト時間）、小型化、発熱量の抑制など多岐にわたり、それらの多くはテスト・システムに搭載される半導体の性能が鍵となっています。このような優位性を実現するため、テスト・システム・メーカーは、製品に搭載する半導体の設計を自社で行います。その設計力こそが、テスト・システムの性能を決定し他社製品との差別化を図るうえでの最重要要素です。テスト・システムに搭載する半導体以外にも、シ

ステム内の通信ネットワーク、電源、被測定デバイスとのコンタクト機構、ソフトウェアなど、テストの能力や品質に関わる差別化ポイントは数多くあります。これらを幅広くカバーし、一つのシステムに統合する技術力が、テスト・システム・メーカーには求められます。日頃から市場調査や顧客との関係構築を通じた情報収集と、それらに基づく要素技術の先行開発を積み重ねることで、他社に真似できない当社の圧倒的技術優位性が築かれています。

半導体テスト・システムの構成



半導体テストのおおまかな手順(ファンクション試験)



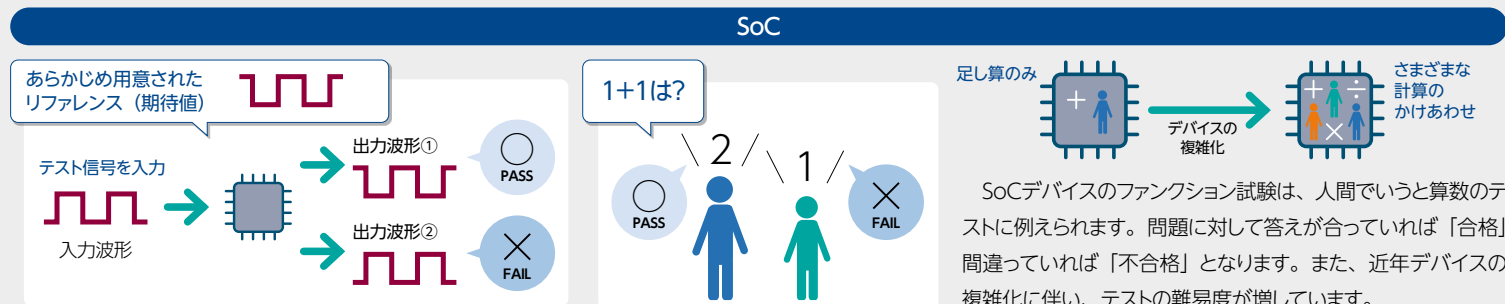
▶ 解説：半導体テスト・システム

半導体テストの種類

一口に半導体といっても、メモリ・デバイスやSoCデバイスなど、用途に応じた機能を持つさまざまな半導体があります。半導体テストは、それぞれの機能に応じた「ファンクション試験」が行われますが、それ以外にも「タイミング試験」、「電気的特性試験」などが行われます。

ファンクション試験

デバイスが設計どおりに動作するかどうか、デバイスが持つ機能に応じてさまざまなパターンでテストを行います。

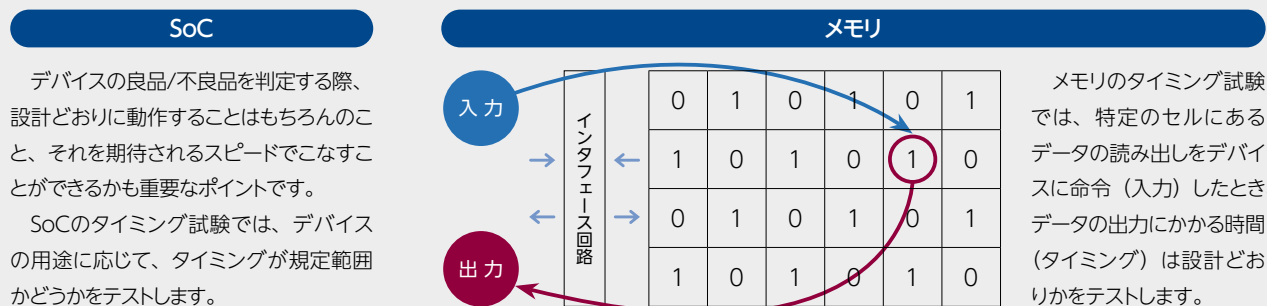


メモリ

データを記憶する最小単位である「メモリセル」に「0」と「1」が書き込み/読み出し可能かをテストします。メモリ半導体はデータを保存するために用いられるため、すべてのセルをテストする必要があります。メモリの大容量化に伴い、多数個同時に効率よくテストすることが重要なポイントとなっています。

タイミング試験

ファンクション試験では、いわば答えが合っているかどうかをテストしますが、タイミング試験では答えが出てくるまでの時間が規定範囲内におさまっているかどうかを確認します。



電気的特性試験

メモリ/SoC共通

電気的特性試験の一つである「リーク試験」では、デバイスに電流を流し、流れ出てくる電流（リーク電流）の値が規定範囲かどうかをテストします。

リーク電流とは、電子回路の中で本来電流が流れないはずの絶縁箇所から電流が漏れ出てしまう現象です。微細化に伴い配線同士が近づき、間を隔てる絶縁体がより薄くなるにつれて、リーク電流が発生しやすくなります。

リーク試験でリーク電流を測定し、測定値が設計上の規定値を超えるかどうか確かめることで、不良品を検出することができます。

当社がテストする半導体

当社のテスト・システムは世界中の顧客が生み出す多種多様な半導体の試験を担っています。当社製品によって信頼性が保証された半導体は、人々の「安全・安心・心地よい」を支えています。



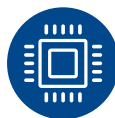
アプリケーション・プロセッサ

スマートフォンの高性能化をもたらしている、半導体の進化を象徴するデバイスです。先端の半導体プロセス採用によってテストの複雑化が最も進展している品種であり、テスト・システムにも積極的な投資がなされます。



ディスプレイ・ドライバーIC

スマートフォンやテレビ等のディスプレイの発色や明るさをコントロールする半導体です。ディスプレイ業界では有機EL採用、タッチセンサーの組み込みなど、技術進化が相次ぎ進められており、ディスプレイ・ドライバーICのテストも高度化しています。



メモリ半導体

データを記憶する半導体で、データを高速で読み書きできるDRAMや、電源無しでデータを長期間保持できるNANDフラッシュなどがあります。近年ではスマートフォン用やデータセンター用の需要が拡大しています。



CMOSイメージセンサー

カメラ画像をデジタルデータに変換する半導体です。スマートフォンのカメラの高画素化や多眼化、動画需要の伸びを背景に画像データ処理の高速化対応が急ピッチに進展していることで、テスト・システムの性能向上ニーズも並行して高まっています。



パワーデバイス

直流と交流の変換や電圧調節の機能などを持つ半導体です。電子機器はもちろん、自動車や産業機器、風力発電・太陽光発電など、広範な用途で使用される半導体です。省電力化への社会的要請を背景に、今後の市場拡大が期待されています。



HPCデバイス

データサーバーやAIサーバーなどで大規模な演算を高速に行うために設計された、いわゆるハイ・パフォーマンス・コンピューティング用途の半導体の総称です。AIや機械学習、深層学習の普及とともに、HPCデバイス市場も年々拡大が続いています。



RFデバイス

無線通信を担う半導体で、スマートフォンおよびその基地局が主な用途です。5G通信のミリ波帯域の本格活用を控え、その技術トレンドに応じたテスト・ソリューションへの期待が高まっています。



車載半導体

エンジンやバッテリーのコントローラー、エアバッグや衝突回避システムのセンサーなど、自動車に搭載される半導体の総称です。自動車の安全基準をクリアするため車載半導体にも高い品質や信頼性が求められることから、テストも入念に行われる傾向にあります。

11年間の主要財務データ

株式会社アドバンテストおよび連結子会社 各年4月1日から翌年3月31日までの1年間

	(単位)	US GAAP / 米国会計基準					IFRS / 国際会計基準					
		FY2012 (2013/3)	FY2013 (2014/3)	FY2014 (2015/3)	FY2015 (2016/3)	FY2016 (2017/3)	FY2017 (2018/3)	FY2018 (2019/3)	FY2019 (2020/3)	FY2020 (2021/3)	FY2021 (2022/3)	FY2022 (2023/3)
連結財務関連データ												
会計年度												
売上高	百万円	132,903	111,878	163,803	162,111	155,916	207,223	282,456	275,894	312,789	416,901	560,191
売上総利益	百万円	68,920	49,333	91,755	91,475	89,740	106,588	154,039	156,497	168,291	235,907	319,061
販管費など(*1)	百万円	68,840	85,702	74,897	78,878	75,835	82,101	89,377	97,789	97,565	121,173	151,374
営業利益	百万円	80	(36,369)	16,858	12,597	13,905	24,487	64,662	58,708	70,726	114,734	167,687
EBITDA(*2)	百万円	8,143	(28,101)	21,588	17,562	19,063	29,511	69,629	69,600	82,482	129,702	189,083
税引前利益(損失)	百万円	(1,293)	(35,501)	20,767	11,767	15,022	24,282	66,211	58,574	69,618	116,343	171,270
親会社株主に帰属する当期利益(損失)	百万円	(3,821)	(35,540)	16,753	6,694	14,201	18,103	56,993	53,532	69,787	87,301	130,400
営業キャッシュ・フロー	百万円	(2,215)	(3,776)	24,481	7,728	15,833	28,254	44,792	66,475	67,830	78,889	70,224
投資キャッシュ・フロー	百万円	(11,498)	(4,711)	(1,310)	(2,395)	(3,521)	(2,329)	(15,915)	(38,819)	(16,831)	(46,907)	(26,706)
財務キャッシュ・フロー	百万円	(2,914)	27,202	(1,298)	(13,531)	(1,002)	(15,237)	(13,724)	(17,916)	(30,415)	(68,736)	(77,434)
フリー・キャッシュ・フロー(*3)	百万円	(13,713)	(8,487)	23,171	5,333	12,312	25,925	28,877	27,656	50,999	31,982	43,518
現金および現金同等物の期末残高	百万円	45,668	68,997	97,574	85,430	95,324	103,973	119,943	127,703	149,164	116,582	85,537
会計年度末												
株主資本	百万円	141,241	116,252	101,810	93,619	109,517	124,610	198,731	231,452	280,369	294,621	368,694
総資産	百万円	225,515	229,856	233,237	210,451	231,603	254,559	304,580	355,777	422,641	494,696	600,224
1株当たり情報(*4)												
基本的1株当たり当期利益(損失)	円	-5.51	-51.02	24.04	9.59	20.27	25.49	75.59	67.53	88.47	112.39	174.35
希薄化後1株当たり当期利益(損失)	円	-5.51	-51.02	21.92	8.85	18.49	23.17	71.84	67.24	87.96	111.82	173.68
1株当たり株主資本	円	203.17	166.84	145.82	134.07	154.83	174.01	251.13	291.63	356.82	387.93	500.61
1株当たり配当金	円	5.00	3.75	3.75	5.00	6.25	8.00	23.00	20.50	29.50	30.00	33.75
発行済み株式数(期末)	株	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,267,080.00	798,169,060.00	766,169,060.00
経営指標												
海外売上高比率	%	89.4	89.1	92.0	92.0	88.2	93.2	94.7	94.6	95.5	96.1	96.3
従業員1人当たり売上高	百万円	29.0	24.2	35.9	36.1	35.3	46.5	61.0	54.7	59.5	70.2	85.6
売上総利益率	%	51.9	44.1	56.0	56.4	57.6	51.4	54.5	56.7	53.8	56.6	57.0
売上高営業利益率	%	0.1	(32.5)	10.3	7.8	8.9	11.8	22.9	21.3	22.6	27.5	29.9
当期利益率	%	(2.9)	(31.8)	10.2	4.1	9.1	8.7	20.2	19.4	22.3	20.9	23.3
売上高販管費率	%	51.8	76.6	45.7	48.6	48.7	39.6	31.6	35.4	31.2	29.1	27.0
研究開発費	百万円	33,062	32,670	29,507	31,298	31,170	33,540	37,852	40,070	42,678	48,367	60,094
研究開発費売上高比率	%	24.9	29.2	18.0	19.3	20.0	16.2	13.4	14.5	13.6	11.6	10.7
設備投資(億円)	億円	126	56	42	40	48	54	66	99	137	180	250
減価償却費および償却費	億円	81	83	47	50	52	50	50	109	118	150	214
EBITDAマージン(*2)	%	6.1	(25.1)	13.2	10.8	12.2	14.2	24.7	25.2	26.4	31.1	33.8
キャッシュ・コンバージョン・サイクル	日	172	192	143	163	186	137	132	162	134	136	178
株主資本比率	%	62.6	50.6	43.7	44.5	47.3	49.0	65.2	65.1	66.3	59.6	61.4
自己資本利益率(ROE)	%	(2.8)	(27.6)	18.5	6.9	14.0	15.5	35.3	24.9	27.3	30.4	39.3
配当性向	%	—	—	15.6	52.2	30.8	31.4	30.4	30.4	33.3	26.7	19.4
為替データ(USDドル)		83	100	108	121	108	111	110	109	106	112	134
(ユーロ)		105	133	140	133	119	129	129	121	123	130	140

(*1) 2013年度までの販管費などは、研究開発費、販売費および一般管理費、構造改革費用、減損費用の合計です。2014年度以降は、販売費および一般管理費、その他の収益・費用の合計です。

(*2) EBITDA=営業利益+減価償却および償却費、EBITDAマージン=EBITDA÷売上高

(*3) フリー・キャッシュ・フロー=営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フロー

(*4) 当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。下記1株当たりの情報は2012年度期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています。

	(単位)	CY2012	CY2013	CY2014	CY2015	CY2016	CY2017	CY2018	CY2019	CY2020	CY2021	CY2022
世界実質GDP伸び率(IMF)	%	3.5	3.4	3.5	3.4	3.3	3.8	3.6	2.8	-3	6	3.5
世界半導体市場(WSTS)	十億ドル	292	306	336	335	339	412	469	412	440	556	574
SoCテスタ市場規模(当社調べ)	百万ドル	2,050	1,450	1,950	1,650	2,000	2,200	2,550	2,700	3,000	4,300	4,000
メモリ・テスタ市場規模(当社調べ)	百万ドル	450	420	420	470	470	750	1,150	650	1,200	1,300	1,200

SASB スタンドアード 対照表

株式会社アドバンテストおよび連結子会社 各年4月1日から翌年3月31日までの1年間

「米国サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)」の提供する業界別スタンダード「SEMICONDUCTORS」に基づき、
当社のサステナビリティ関連情報を整理しました。



※当データはCSV形式でダウンロードできますのでご活用ください。

<https://www.advantest.com/ja/sustainability/esg/sasb2023ja.csv>

開示トピック	会計メトリクス	SASBコード	カテゴリー	単位	FY2016 (2017/3)	FY2017 (2018/3)	FY2018 (2019/3)	FY2019 (2020/3)	FY2020 (2021/3)	FY2021 (2022/3)	FY2022 (2023/3)
温室効果ガス 排出量	(1) Scope 1の排出量	TC-SC-110a.1	定量的	t-CO ₂ e	3,838	3,825	4,685	4,485	3,811	3,753	3,449
	(2) パーフルオロ化合物からの総排出量	TC-SC-110a.1	定量的	t-CO ₂ e	940	339	290	344	629	899	999
	短期および長期のScope 1の排出量に関する 戦略および目標と進捗	TC-SC-110a.2	議論と分析	—	Scope 1の排出量に関する戦略および目標と進捗については以下URLをご参照願います。 https://www.advantest.com/ja/sustainability/advantest-sustainability/materialityESG.html						
製造における エネルギー管理	(1) エネルギーの総消費量	TC-SC-130a.1	定量的	ギガジュール (GJ)	736,049	770,427	844,021	887,837	956,119	996,766	1,003,815
	(2) 系統電力(グリッド)からの電気の割合	TC-SC-130a.1	定量的	%	79	79	79	66	52	44	35
	(3) 再生可能エネルギー割合	TC-SC-130a.1	定量的	%	13	13	12	28	44	54	63
水管理	(1) 総取水量	TC-SC-140a.1	定量的	千m ³	288	249	280	261	250	236	242
	(2) 総水消費量	TC-SC-140a.1	定量的	千m ³	172	127	119	112	107	106	129
	総ベースライン水ストレスが高いまたは 非常に高い地域におけるそれぞれの割合	TC-SC-140a.1	定量的	%	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物管理	(1) 製造による有害廃棄物の量	TC-SC-150a.1	定量的	トン(t)	7.6	6.4	10.1	11.9	28.5	8.4	18.1
	(2) リサイクル率	TC-SC-150a.1	定量的	%	73.8	100.0	100.0	99.9	91.1	71.9	86.8

▶ SASB スタンダード 対照表

開示トピック	会計メトリクス	SASBコード	カテゴリー	単位	FY2016 (2017/3)	FY2017 (2018/3)	FY2018 (2019/3)	FY2019 (2020/3)	FY2020 (2021/3)	FY2021 (2022/3)	FY2022 (2023/3)	
従業員の安全衛生	従業員の健康に対する危険物への曝露を評価、監視および減少させるための取り組みの説明	TC-SC-320a.1	議論と分析	－	従業員の健康と安全に関するリスクマネジメントについては以下URLをご参照願います。 https://www.advantest.com/ja/sustainability/society/safety.html							
	従業員の安全衛生違反に関連する法的手続の結果としての金銭的損失の総額	TC-SC-320a.2	定量的	円	957,552	0	0	0	0	0	0	0
グローバルで熟練した労働力の採用と管理	各従業員の割合： (1) 外国籍の従業員	TC-SC-330a.1	定量的	%	8	8	8	9	8	7	8	
	(2) オフショアで雇用されている従業員	TC-SC-330a.1	定量的	%	0	0	0	0	0	0	0	
製品ライフサイクル管理	IEC 62474申告対象物質を含む製品の収益割合	TC-SC-410a.1	定量的	%	81	85	89	85	91	91	92	
	サーバー、デスクトップPC、ラップトップPCに対するシステムレベルでのエネルギー効率	TC-SC-410a.2	定量的	製品カテゴリー別の単位	開示していません							
資材調達	クリティカルマテリアルの使用に関連するリスクマネジメントについての説明	TC-SC-440a.1	議論と分析	－	クリティカルマテリアルの使用に関するリスクマネジメントについては以下URLをご参照願います。 https://www.advantest.com/ja/sustainability/society/schain-management.html							
知的財産の保護と競争的行為	反競争的行為に関する法的手続に伴う金銭的損失の総額	TC-SC-520a.1	定量的	円	0	0	0	0	0	0	0	
総生産量		TC-SC-000.A	定量的	生産台数	1,116	1,891	2,270	2,065	2,336	3,082	3,467	
自社工場での生産量		TC-SC-000.B	定量的	%	39	45	53	39	43	11	10	

外部からの評価

格付機関からの評価

MSCI ESGレーティングで「AA」を獲得



当社は、2023年のMSCI ESGレーティングにおいて、「AA」評価を獲得しました。これまでの「A」から格上げされたもので、当社のESGへの取り組みが高く評価されました。

MSCI ESGレーティングは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の各分野にわたる企業の取り組みを網羅的に分析し、7段階で格付けするものです。

S&P Global社「The Sustainability Yearbook 2023」において「Sustainability Yearbook Member」に選定



66 / 100

As of February 7, 2023
 Rating and Score are industry specific and reflect exclusion screening criteria. Learn more at [spglobal.com/yearbook](https://www.spglobal.com/yearbook)
 S&P Global Sustainable

当社は、S&P Global社が持続可能性において優れた企業を掲載する「The Sustainability Yearbook 2023」において、評価スコアが業界の上位15%以内の企業として「Sustainability Yearbook Member」に選定されました。

CDP「気候変動レポート2022」において「A-」評価を獲得、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定



当社は、CDP気候変動レポート2022において、「A-」評価を獲得しました。CDPは、投資家、企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営している国際的なNGOです。企業や都市の気候変動、水資源保護、森林保全などの環境問題対策に関する取り組みを調査し、その評価結果を投資家向けに開示しています。また、同じくCDPが実施する「サプライヤー・エンゲージメント評価 (SER)」において「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定されました。「サプライヤー・エンゲージメント評価」は、企業が気候変動課題に対して、効果的にサプライヤーと共同しているかを評価するもので、当社の気候変動に関連したサプライヤー協働による積極的な取り組みが高く評価されたものです。

投資指標への組み込み

「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄に選定



当社は、米国S&P Dow Jones Indices社が発表した2022年の「ダウ・ジョーンズ・アジア・パシフィック サステナブル・インデックス」の構成銘柄に選ばれました。

DJSIは、S&P Dow Jones Indices社が業界ごとに持続可能性に優れている企業を選定、構成する株式インデックスです。1999年の開始以来、企業のサステナビリティ・パフォーマンスを測る重要な指標として世界的に認知されています。

「FTSE4Good Index Series」に選定



FTSE4Good

当社は、FTSE4Good Index Seriesの構成銘柄に選定されました。FTSE4Good Index Seriesは、FTSE Russellが、企業の持続可能性を環境、社会、ガバナンスに関する多様な評価基準に基づいて優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために設計されたインデックスで、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価における代表的な指標です。

「FTSE Blossom Japan Index」に選定



FTSE Blossom Japan Index

当社は、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に選定されました。FTSE Blossom Japan Indexは、FTSE Russellが、環境、社会、ガバナンス (ESG) の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するために設計したインデックスです。

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に選定



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

当社は、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定されました。

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、FTSE Russellが、環境、社会、ガバナンス (ESG) 評価の高い日本の大型株、中小型株のパフォーマンスを反映するように設計されたセクター・ニュートラルなベンチマーク指数です。

外部からの評価

【MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数】に選定

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

当社は、MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数の構成銘柄に選定されました。

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数は、親指数（MSCIジャパンIMI指数）構成銘柄の中から、親指数における各GICS®業種分類の時価総額50%を目標に、ESG評価に優れた企業を選別して構築される指数です。

【S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数】の構成銘柄に選定



当社は、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に選定されました。S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数は、日本市場の動向を示す代表的な株価指数であるTOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性（売上高当たり炭素排出量）の水準に着目して、構成銘柄のウェイトを決定する指数です。

【SOMPOサステナビリティ・インデックス】の構成銘柄に選定



当社は、「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に選定されました。SOMPOサステナビリティ・インデックスは、毎年約300銘柄がESG（環境、社会、ガバナンス）評価と株式価値を組み合わせた評価に基づいて選定され、年金基金や機関投資家向けに運用する「SOMPOサステナブル運用」に用いられるSOMPOアセットマネジメント社が設定するインデックスです。

活動に対する評価・表彰

TechInsights社の顧客満足度にて4年連続で第1位を獲得



当社は、TechInsights社（旧VLSresearch社）の顧客満足度調査において、4年連続で半導体製造装置メーカー顧客満足度第1位を獲得しました。また、半導体製造装置（ラージサプライヤー）部門の「10BEST Suppliers」についても35年連続の受賞を達成しました。

TechInsights社の顧客満足度調査は、1988年から続く半導体メーカーからのフィードバックを得られる業界随一の調査として知られており、「サプライヤーとしてのパフォーマンス」「顧客サービス」「製品性能」の3つのキーファクターに基づく14項目で装置メーカーが評価、格付けされます。

【健康経営優良法人（ホワイト500）】に3年連続で認定



当社は、経済産業省と日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2023」（大規模法人部門）に認定されるとともに、認定法人の上位500社に該当する「ホワイト500」に3年連続で選ばれました。さらに今年は初めて、国内の全グループ会社7社を含めた認定となりました。



当社は、2019年9月に「健康宣言」を制定して以来、国内グループ会社、健康保険組合、労働組合と一体となり、健康診断の受診勧奨、特定保健指導実施率の向上、メンタルヘルス対策など

に取り組んでまいりました。また、オンラインダイエット・禁煙プログラム、健康増進アプリを利用した運動促進や健康リテラシー教育など、従業員およびその家族の健康に直接働きかける活動を積み重ねています。

ワークライフ・バランスにも積極的に取り組み、2020年11月に女性活躍推進法に基づく認定マーク「えるぼし」を、2021年2月に次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「くるみん」をそれぞれ取得しました。新型コロナウイルスの感染拡大に際しては、経営トップによる健康最優先にする旨の通知を発信し、テレワーク環境の支援など感染拡大防止への取り組みも徹底してきました。

会社の最大の財産である社員のみなさんが心身とも健康で活き活きと能力を発揮できるよう、引き続き会社、健康保険組合、労働組合が一体となり健康増進活動を推進していきます。

Advantest Europe GmbHが「Best employers in the category of Information Technology and Communication」を受賞



Advantest Europe GmbH(AEG)は、2023年、「Great Place to Work®」が実施する調査において、「Best employers in the category of Information Technology and Communication」を受賞しました。

本アワードは、グローバルな調査機関である「Great Place to Work®」によって実施される、すべての産業のさまざまな規模の企業を対象とした企業文化を評価する表彰です。ランキングにおける優れた企業文化とは、高い信頼、尊敬、感謝、チームスピリット、社員と会社の一体感です。また、AEGは「Bavaria's Best Employer」（バイエルン州：AEG本社＝ミュンヘンとアメラング・オフィスの所在地）でも、6位にランクインしました。

会社概要／株式情報 (2023年3月31日現在)

会社概要

会社名：株式会社アドバンテスト
 英文表記：ADVANTEST CORPORATION
 所在地：東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング
 設立：1954年12月
 資本金：32,363百万円
 上場証券取引所：東京証券取引所プライム市場（証券コード：6857）
 従業員数：7,117人（臨時従業員含む）
 事業内容：半導体・部品テスト・システム事業、
 メカトロニクス関連事業、サービス他

株式に関する情報

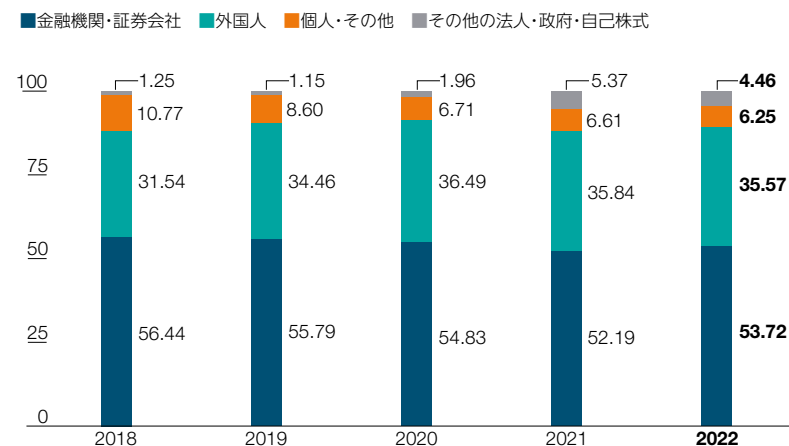
決算日 3月31日
 定時株主総会 毎年6月開催
 発行可能株式総数：1,760,000,000株（2023年10月1日現在）
 発行済株式の総数：766,141,256株（2023年10月1日現在）
 株主数 31,841名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	61,338	33.26
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	28,274	15.33
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	3,201	1.73
HSBC HONGKONG-TREASURY SERVICES A/C ASIAN EQUITIES DERIVATIVES	2,938	1.59
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT	2,821	1.53
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	2,041	1.10
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,899	1.03
ゴールドマン・サックス証券株式会社BNYM	1,861	1.00
DZ PRIVATBANK S.A. RE INVESTMENTFONDS	1,691	0.91
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,644	0.89

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てております
 2. 持株比率は、自己株式(7,166,043株)を控除して計算しております
 3. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てております

株式所有者別分布



グローバル・ネットワーク

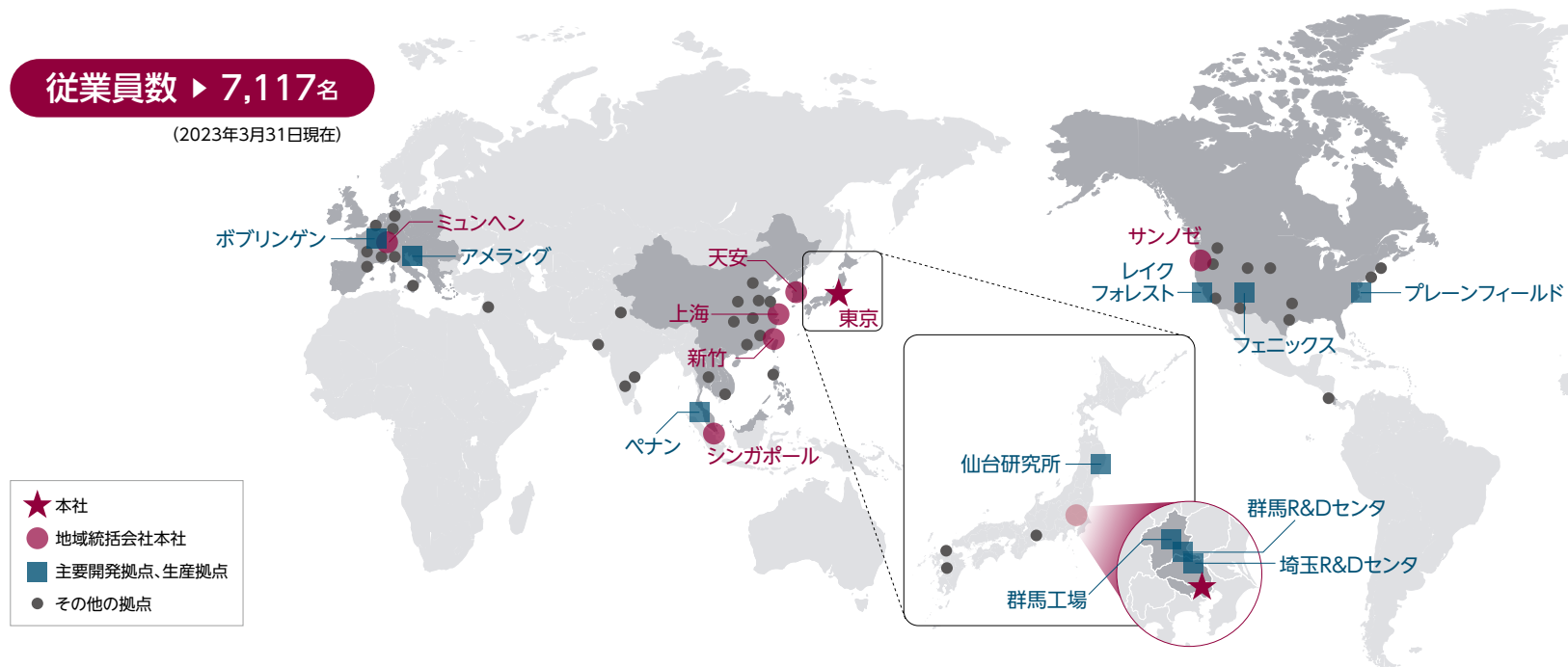
アドバンテストは、日本、ドイツ、アメリカの開発拠点のほか、台湾、韓国、中国などのアジア地域を中心に営業・サービス拠点を構えています。

半導体業界は世界的に分業化が進み、一つの半導体が設計工程、ウェーハ工程、パッケージ工程それぞれ別の企業および地域で作られることも珍しくありません。

当社は世界各地の営業、開発、サービス部門が地域を跨いでチームを組み、設計から量産に至るまで顧客のバリューチェーンをグローバルに、かつワンストップでサポートします。

従業員数 ▶ 7,117名

(2023年3月31日現在)



地域統括会社

地域	社名	本社所在地
米州	Advantest America, Inc.	米国カリフォルニア州サンノゼ市
欧州	Advantest Europe GmbH	ドイツミュンヘン市
東南アジア	Advantest (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール
韓国	Advantest Korea Co., Ltd.	韓国天安市
台湾	Advantest Taiwan Inc.	台湾新竹縣
中国	Advantest (China) Co., Ltd.	中国上海市

その他の主な子会社

地域	社名	本社所在地	事業内容
日本	株式会社アドバンテスト九州システムズ	福岡県北九州市	当社製品の部品の開発・製造および保守
日本	株式会社アドバンテスト研究所	宮城県仙台市	計測試験技術の研究開発
日本	株式会社アドバンテストコンポーネント	宮城県仙台市	当社製品の部品の開発・製造
日本	株式会社アドバンテストグリーン	群馬県邑楽郡	事業所の環境衛生管理・緑化サービス(障がい者雇用促進の特定子会社)
米州	Advantest Test Solutions, Inc.	米国カリフォルニア州	システムレベルテスト製品等の設計・販売
米州	Essai, Inc.	米国カリフォルニア州	テストソケット等の設計・製造・販売
米州	R&D Altanova, Inc.	米国ニュージャージー州	テスト用インタフェースボードの設計・製造・販売
欧州	CREA - Collaudi Elettronici Automatizzati S.r.l.	イタリアピエモンテ州	パワー半導体用試験装置の設計・製造・販売
東南アジア	Advantest (M) Sdn. Bhd.	マレーシアペナン州	当社デバイス・インタフェース製品の製造